

公開日: 2024/02/26

〈小説〉『所得課税第三部門にて。』 【第78話】「キックバックと雑所得」

筆者: ハッ尾 順一

カテゴリ: 読み物 連載

〈小説〉

『所得課税第三部門にて。』

【第78話】

「キックバックと雑所得」



公認会計士・税理士 ハッ尾 順一

浅田調査官は、先ほどから国税庁が公表（令和6年1月）している「[令和5年分の所得税及び復興特別所得税の確定申告について－政治資金に係る「雑所得」の計算等の概要二](#)」を読んでいる。

そして、「政治資金に係る「雑所得」の計算」には、次のように記され、国会議員に注意を喚起するためか、下線が引かれている。

政党から受けた政治活動費や、個人、後援団体などの政治団体から受けた政治活動のための物品等による寄附などは「雑所得」の収入金額になりますので、所得金額の計算をする必要があります。

浅田調査官は、冊子を見ながら、ボールペンで政治資金に係る所得金額の計算式を書く。

政治資金収入 - 政治活動のために支出した費用 = 所得金額

「・・・この政治資金収入だが・・・」

浅田調査官は、呟きながら、冊子に例示されている政治資金収入を見る。

イ 政党から受けた政治活動費などの政治活動のための資金

ロ 個人、政党、後援団体などの政治団体から受けた政治活動のための物品による寄附や便益・労務による寄附

そこに中尾統括官が、爪楊枝をくわえながら、片手に新聞を握って、やってくる。

「おっ、昼休みなのに、仕事をしているの？」

中尾統括官は、ニコニコして、声をかける。

「・・・例の・・・裏金のキックバックか・・・」

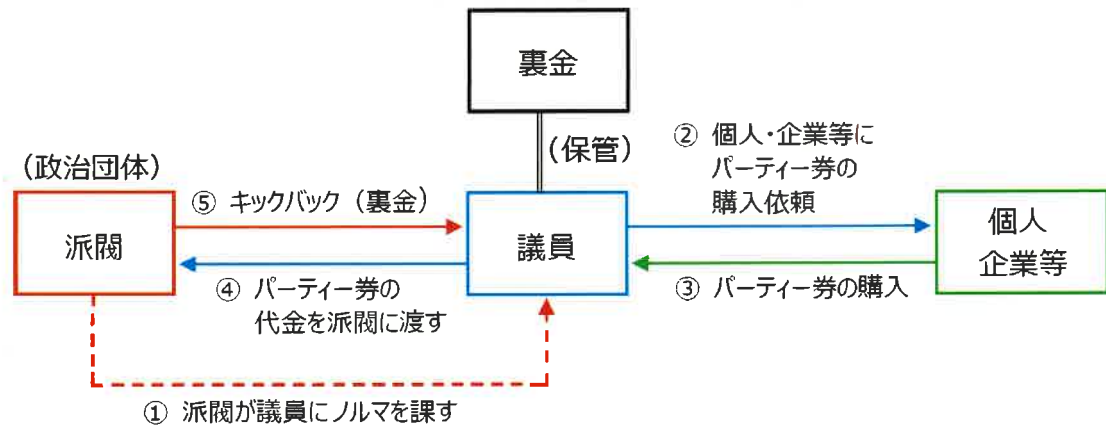
中尾統括官は、机の上に広げている冊子を見て、声を落とす。

「・・・この新聞には・・・無申告なら税逃れの可能性があると書いてある・・・」

中尾統括官は、手に持っている新聞を広げる。

「・・・ところで・・・キックバックのほかにも、ノルマを超えた売上を派閥に渡さず、議員個人が裏金にしていたとも書かれている・・・」

中尾統括官は、浅田調査官の描いた図を見ながら言う。



「・・・この場合、課税関係はどうなるのですか？」

浅田調査官は、中尾統括官の顔を見る。

「・・・新聞を読んでもキックバックの性格自体、はっきりしていないが、今回、裏金は、派閥から政治資金収支報告書に記載しなくてもよいと言われている・・・そして、政治資金であれば記載する必要があることから、記載しなくてもよいということは、逆に、政治資金ではないと解することができる・・・」

中尾統括官は、慎重に言葉を選ぶ。

「・・・ともあれ、派閥から議員個人がキックバックを受け、政治資金収支報告書に記載しないのであれば、それは雑所得の収入として計上すべきで・・・そして、政治活動のために支出した費用について、議員自身が領収書等でその支出内容を明らかにしなければ費用として認められないでしょう・・・」

浅田調査官は、少し怒ったような表情になる。

「もちろん、政治家といえども、政治活動のために支出した費用については、他の納税者と同様に、政治家自身がその内容を明らかにしなければならない・・・」

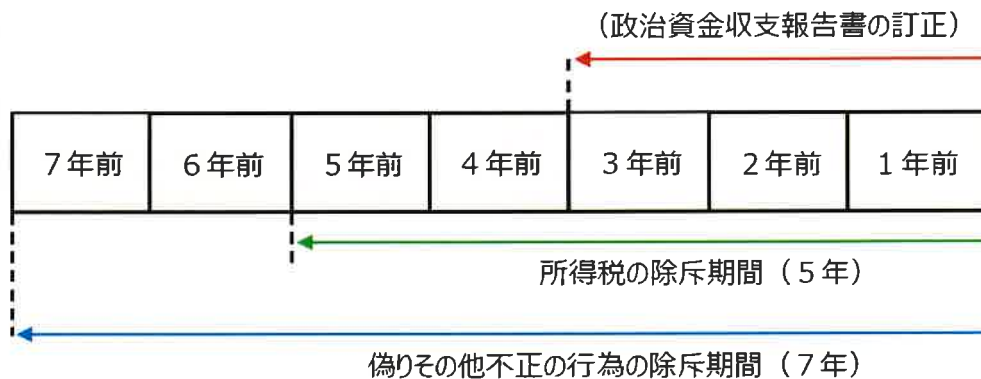
中尾統括官は、大きく頷く。

「ところで、この新聞を見ると、過去3年間のキックバックについて、政治資金収支報告書の訂正をしたことになっているが・・・仮にその訂正額を政治資金と認めるとしても、それ以前については訂正されていないので・・・税務上は、訂正されていない年度について、雑所得として課税されることになるだろう」

中尾統括官は、シワの入った新聞を見ながら言う。

「・・・ということは・・・所得税の除斥期間は、5年ですから、政治資金収支報告書に記載されていない2年分の所得税については・・・雑所得で課税されることになるのでしょうか・・・さらに・・・キックバックの裏金そのものが『偽りその他不正の行為』（国通法70⑤）に該当すれば、当然、除斥期間は、7年間になりますね・・・」

浅田調査官は、ボールペンを持って、図を描く。



「そうだな・・・この事件は、まだ、政治家個人に対する税金（雑所得）の問題が残っているということか・・・」

中尾統括官は、腕を組んで、思案顔になる。

「そりゃあ・・・国民（納税者）は・・・とても怒っていますからね・・・政治家は、キックバックによって自由に使ってもよい巨額の裏金を受け取り、その用途を明らかにしない、そして税金も払わないのですから・・・納税者には、課税に対する不公平感があります」

浅田調査官は、赤い顔をして話す。

「そうだよな・・・国会で法律を作る人は、誰よりも法の趣旨を守らなければならない」

中尾統括官は、頭をかきながら、苦笑いする。

(つづく)

この物語はフィクションであり、登場する人物や団体等は、実在のものとは一切関係ありません。